

ことぶきつづり

第20号
17/10/11
発行
ことぶき大学
事務局
TEL 39-2318



富良野校自治会自主講座 遊べる数学

秋晴れの日が続ぎ、日中は少しポカポカ陽気でしたが、今週はかなりの気温が低くなるようです。

紅葉の候、ことぶき大学の皆さんにおかれましては、ますますご健勝のことと存じます。

今回は、富良野高校から布施先生を講師にお招きし、「遊べる数学」をテーマに自治会自主講座を開催しました。



みなさんの真剣な顔、さすがはことぶき大学の皆さんですね。

でも、とても楽しそうでした。遊びを通して数学を学んでいるということでしょうか。

子どもは遊びを通して学ぶとよくいわれています。遊びと学びとは本来一体化しているものかもしれません。そう考えると今の学校での勉強は、休み時間（遊びの時間）をつくることによって遊びのない学びの時間になって、学校の勉強では、遊びがなく、そのため楽しさがありません！

？…そんなことを講座の中で考えたりしていました。
布施先生、ご多用のところご講義いただきありがとうございます。

本日の日程



※富良野校自治会費納入日
10月11日（水曜日）

当番 大学院2年
08時45分 当番会場づくり
09時15分 朝のつどい

25日のカーリング大会について（班編成）

10時00分 クラブ⑧

12時00分 昼食・休憩

12時45分 カーリング打ち合わせ

13時00分 学年別研究（実践発表）

15時00分 交流会に向けて）

スコップ三味線同好会練習（大会議室）

フロアーカーリング大会 打ち合わせ

配布物の中に、25日開催のフロアーカーリング大会の班編成を含めた大会要領があります。

来週、ことぶき大学はありませんので、準備や審判等についてご協力をお願いいたします。
必要に応じて、本日午後始まる前に時間を取りたいと思います。

16日（月）看護専門学校生 体験学習ボランティア

来週16日（月曜日）午後2時文化会館にご集合ください。事務局上用を含めて15名の参加となります。
よろしく願います。

次回の日程

10月24日（火曜日）

10時00分 絵手紙クラブ学習◎

10月25日（水曜日）

当番 研究生・本科1年

08時45分 当番会場づくり

09時15分 朝のつどい

10時00分 クラブ学習◎

12時00分 昼休み・休憩

12時50分 フロアーカーリング大会

15時30分 スコップ三味線同好会練習（大会議室）

スポンサー移動

次回の絵手紙クラブ
24日(火曜日)です

総合文化祭に向けて、各クラブでは作品づくりに向けた取り組みが行われていると思います。

なお、次回の**絵手紙クラブ**は、**24日(火曜日)**が活動日となりますので、**25日(水曜日)**は、午後のカラーリング大会で直接スポーツセンター集合ということになります。

ことぶき大学・銀嶺大学・いしずえ大学
三市町交流会について

27日(金曜日)の三市町交流会ですが、別紙の通りの参加体制で現在考えています。

なお、次年度は富良野市でパークゴルフの交流会を開催する方向で進んでいますが、今後につきましては皆さんとともに対応について検討していきたいと思っています。

お薦めの一冊



娘が小さい頃の童話で印象に残っているものがいくつもあります。

大人にも、もっと読んでほしいと思います。

「たのしいふゆごもり」

片山令子 作
片山 健 絵



もりに おおきなきが いっぱいあって、その ねもとに こぐまと おかあさんが すんでいました。

へやのまんなかには、おおきなベッドと ちいさなベッド。こぐまは、まだ ひとりで ねむれないので、ちいさなベッドは いつも 空っぽです。

こぐまは あるひ、おかあさんに いきました。

「いっしょに ねむるぬいぐるみをつくって。そうしたら あたし、ちいさいベッドで ねむれるわ」

「そう。そんなら あした つくってあげようね」

つぎのひ、こぐまが めをさますと、 おかあさんは もう オーバーを きていました。

「さあ、おきて。でかけますよ」
「きょうは ぬいぐるみ つくって

くれる はずだったでしょ。おかあさん」

「そうだったね。でも ゆきが ぶつてくるまえに ふゆごもりのようにを みんな やってしまわなくちゃならないの」

「ふゆごもりって なあに？」
「たくさんたべて あったかくして、はるまで ねむること。ほら、もう ふゆのにおいが してきた。うーっ、さむい」

おかあさんのいきが しろく みえました。

そとは、もっと さむいです。(略)



漱石文学について

「夏目漱石没100年の読み直し」
一度は読んでみたい漱石名作集
「彼らは鞭うたれつつ死に赴くものであった。ただ其の鞭の先に、凡てを癒す甘い蜜の着いてくるのを覚ったのである。」

《門》

崖下の借家で、

お手伝いさんひとりを置いて暮らす夫婦。夫は下級官

吏として、毎朝腰に弁当をぶら下げて役所へ行き、妻は家で掃除や洗濯、針仕事に励む。

豊かではないが、多くを望むことなく、心配事や不安があっても、互いにいたわり合い、純粹に睦み合う宗助とお米。淡々としたふたりの生活だが、彼らには世間に顔向けできないような過去があった。

宗助が友人の恋人だったお米を奪い、妻にしたという。

登場人物や設定は異なるが、「それから」の続編と見なせる内容なので、「三四郎」「それから」「門」は漱石の初期3部作と呼ばれている。

平穏な毎日でありながら、底部に渦巻く黒々とした流れを意識する宗助は、何とか悟りを得たいと鎌倉の禅寺で修行する。

しかし、何も会得することなく一人の凡人としてお米のもとへ帰って行く。それでいいのだ、と漱石の筆はあつくまでも温かい。

皆さんからの寄稿を

募集しております。